日中友好のしんぶん
日本と中国

1｜1
2018年第1号　岐阜県版
発行：岐阜県日本中国友好協会
500-8117　岐阜県岐阜市南殿町2－10
TEL / FAX　058-240-0621

新年のご挨拶

岐阜県日本中国友好協会
会長　杉山　幹夫

２０１８年が明けました。おめでとうございます。新しい年の初めに際し、一言ごあいさつ申し上げます。

昨年は、日中国交正常化45周年、岐阜・杭州市「日中不再戦」碑文交換55周年でした。当協会では主催事業「ぎふ中国くるぶ」を中心に、日中間の相互理解と友好親善にいささかなりとも貢献できたと思います。

５月の星屋秀幸氏（森ビル特別顧問）講演では、日中ビジネス30余年の体験に基づく、人と人が織りなす成果を学び、10月の小坂文乃さん（日比谷松本楼社長）の講演からは、梅屋庄吉と孫文の友情と信頼から、今を生きる我々のヒントをくみ取ることができました。

10月の中部6県日中友好協会の民間友好写真展では、当協会が日中友好交流に果たした役割や足跡を県内外にアピールできました。あらためて会員のご協力、ご尽力に御礼申し上げます。

今年は日中平和友好条約締結40周年、日中不再戦・中日友好の碑建立55周年です。日中関係はぎくしゃくした状態が続いていますが、首脳同士の訪問が話題に上がるなど、厚い雲の間から日が差してくるように思われます。

当協会では今年も「ぎふ中国くるぶ」事業を継続、民間交流をけん引してまいりたいと考えております。理事・運営委員を中心に新たな企画を練っているところです。

「岐阜県日中友好協会、ここにあり」の気概を胸に、日中関係が前に進むよう、「日中不再戦」のたいまつを掲げ、皆様の先頭に立ってまいります。どうかご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

孫文支えた梅屋庄吉

ひ孫の小坂文乃さん朝日大で講演

岐阜県日中友好協会は辛亥革命の指導者、孫文を支援した梅屋庄吉のひ孫、小坂文乃さん（日比谷松本楼社長）を招き、２０１７年10月28日、瑞穂市の朝日大学で講演会を開催しました。

小坂さんは「梅屋はアジアの平和を願って孫文を支援した」と曽祖父の思いを語り、メディアが報じていない秘話もいくつか披露しました。

講演会は当協会の企画事業「ぎふ中国くるぶ」の第３弾。日中関係に興味のある市民にも無料で公開しており、今回は県内、名古屋市、遠路上海市など県外からも多数の参加がありました。

小坂さんは「梅屋庄吉と孫文～Transnationalな生き方に学ぶ～」と題し、梅屋と孫文の出会いから話を始めました。２人の友情と信頼がアジアを力でねじ伏せようとする西欧列強に立ち向かい、腐敗した清朝を倒す力になった、と指摘。

梅屋は幼少期から困っている人を放っておけない性格で、孫文ならアジアを強くし平和をかなえてくれると信じ、「君は兵を挙げよ。我は財を以って支援す」との有名な発言になったのではないか、と曽祖父の心中を推し量りました。映画事業で成した財を惜しみなく投じ、その額は梅屋も把握できないほどだったと語りました。

孫文と宋慶齢の縁結びは梅屋の妻トクだったこと、梅屋庄吉、孫文、宮崎滔天の子孫同士が世代を超えて交流していること、孫文生誕１５０年の昨年、北京での祝賀行事に招かれ、習近平国家主席ら国家指導者が駆け付けたエピソードを紹介しました。

（講演要旨は裏面に掲載しました）

梅屋庄吉はアジアの平和を願って孫文を支援したと語る小坂文乃さん＝朝日大学

日中友好の活動振り返る

ぎふメディアコスで写真展

日中国交正常化45周年を記念し、岐阜県など中部6県の日中友好協会の活動を振り返る日中民間友好写真展が2017年10月16日から20日まで岐阜市司町のぎふメディアコスモスで開かれました。

同写真展は中部6県の日中友好協会と駐名古屋中国総領事館が主催。各県協会から15点ずつ、計90点が愛知、岐阜、三重、石川、福井、富山会場を巡回しました。

岐阜県日中友好協会は日中不再戦碑文交換55周年に合わせ、1962年の岐阜市と杭州市の碑文交換式、79年の友好都市提携調印式、岐阜市の提案で始まった西湖マラソン（現杭州マラソン）、栄叡座像里帰り運動、歴代駐日大使、2015年の当協会創立60周年式典などの写真を展示しました。

初日は鄧偉総領事が訪れ、杉山幹夫会長の案内で見て回り、碑文交換の写真の前で「これは中日友好の原点といえる貴重な1点。両国の絆を深めて行こう、という意気込みが伝わって来る」と感想を述べました。

杉山幹夫会長の案内で写真を見る鄧偉総領事（右）＝岐阜市のぎふメディアコスモス

写真展会場を訪れた江西省の学生訪問団

期間中、たくさんの人が来場。岐阜県の友好都市、江西省の学生訪問団約50人が市内見学の途中に会場を訪れ、日中交流の歴史を興味深そうに見入っていました。

小坂さんの講演要旨

東京・日比谷松本楼の小坂文乃です。松本楼は明治36（1903）年、日本初の洋式日比谷公園と同時にオープンした洋食レストランです。松本楼には梅屋庄吉と孫文の史料、孫文夫人の宋慶齢が梅屋邸で弾いていたピアノを展示しています。

昨年（2016年）、孫文生誕150年を祝う行事が北京であり、米国やハワイなどに暮らす孫文の子孫、日本からは梅屋、宮崎滔天の子孫が招待されました。5年に一度の国家行事となっております。当日は習近平国家主席らが出席しました。

2011年にこんな話が判明しました。1236人の日本人が孫文と関わり、大半が孫文を利用し何らかの利益を得ようとしました。

中国では孫文より孫中山（ちゅうざん）が一般的ですが、中山は日本に亡命していたときの偽名です。当局を煙に巻くため中山（なかやま）を名乗っていました。また、中山服は日本の詰襟学生服を参考に仕立てたといいます。

梅屋は明治元（1868）年11月、長崎で生まれ貿易商の子として成長します。困った人を見過ごせない性格で、店の売上金を貧しい人に施したそうです。また、冒険心あふれ、15歳のとき、梅屋商店の船で初めて上海を訪れます。長崎と上海は近く、長崎の人は下駄履きで出掛けて行く感じ。東京へ行くときは水盃を交わしたほど。

梅屋が上海で見た光景とは、中国人を酷使、人を人と思わない西欧列強の人々でした。アジア人同士が協力しアジアを強くしなければとの思いを抱きました。

12年後の1985年、梅屋は孫文と出会います。孫文は医学校の恩師、ジェームズ・カントリー博士と香港の梅屋の写真館を訪ねました。民衆の苦しさや貧しさは医術では救えない、と訴える孫文に梅屋は言います。「君は兵を挙げよ。我は財を以って支援す」。梅屋27歳、孫文29歳のときでした。

孫文は1866年、中国広東省で生まれ、13歳のときにハワイの兄を頼って国を出ました。

ホノルルで大学まで進みますが、兄は民主主義やキリスト教に感化される弟を心配し、帰国させます。孫文は医

学の道に進み、香港の西医書院でカントリー博士と出会いました。「アジアを西欧列強の支配から解き放ち、独立自尊の道を進む」。２人は意気投合、盟友、義兄弟の契りを結び、梅屋は孫文を支援していきます。

梅屋は映画事業で孫文の映画広告を出すなどアイデアマンでした。稼いだお金は中国革命の軍資金に拠出。映画フィルムを入れる箱に札束を詰め込んで渡したそうです。

妻トクも紹介しておきたい。トクは日本に亡命中の孫文と宋慶齢の結婚に奔走しました。宋家三姉妹の次女慶齢は、米国留学から孫文を支援する両親が住む東京に。姉に代わって孫文の秘書になります。しかし、慶齢は両親と上海へ。孫文はふさぎ込み、親子ほど年下の慶齢と結婚したい、と。

エピソードを織り交ぜ、梅屋庄吉と孫文の交流を語る小坂文乃さん＝朝日大学

トクは部下を使い慶齢を上海から連れ出し、孫文と本妻との離婚を見届けた１９１５年、夫と梅屋邸で２人の結婚披露宴を仲立ちしました。

革命資金を作りました。１９１１年、白瀬中尉の南極探検隊に１１万５千円をポンと出しました。朝日新聞社は５千円でした。梅屋は探検隊にカメラマンを同行させ、南極の様子を撮影させました。同じ頃、中国から武昌蜂起成功の報が届きました。

南極探検隊の映画は空前のヒット。それ以前に伊藤博文の国葬を隠し撮り、新聞に

その後、孫文は１９２４年11月、神戸で有名な大アジア主義の演説をしました。東洋の王道を歩むのか、西洋覇道の走狗になるのか、日本の帝国主義に警鐘を鳴らし、アジア、東洋の平和を訴えました。

１９２５年３月、「革命いまだならず」を最後に死去。享年59。梅屋は孫文の死を悼み、４体の銅像を広東中山大学などへ寄贈。文化大革命のとき、周恩来総理が銅像を紅衛兵の破壊から守り現存しています。

満州事変が起きると、梅屋はアジア人同士が傷つけ合ってはいけない、と日中戦争回避に動きます。

しかし１９３４年11月、広田弘毅外相と３度目の面談に行く朝に倒れ、亡くなります。享年65。無念さはいかばかりかと。

「富貴在心」「積善家」。梅屋の信条です。人の価値とは、富や名声ではなく、その人の心の中にある。そして善行を積み重ねる。大切な遺言でもあります。

２００８年５月、10年ぶりに中国の国家主席が来日され、胡錦濤主席と福田康夫首相が松本楼にお越しいただきました。胡主席は孫文と梅屋庄吉の史料をじっくりご覧になった後、「中日友好　世世代代」と色紙に揮ごうされました。

今、中高生の歴史教科書に孫文と梅屋庄吉が紹介され、２人を軸にした交流事業や活動が活発に行われています。２人が願った平和と人類平等の志。わたしたちは、世代を超えて受け継いでいかなければならないと思っています。

（文・写真とも土屋康夫理事長）

◆イベントのご案内◆

日中友好新春の集い

日時：２月３日（土）10：30～13：00

会場：グランヴェール岐山（岐阜市柳ケ瀬６－14）

第１部講演

講師・演題：森松工業取締役グループ営業企画部部長　西村今日子さん

日中友好への思い

～日中ビジネス30年の経験から～

第２部講話

杭州リポート

～変わりゆくものと変わらないもの～

報告者　土屋康夫理事長

※会費６，０００円